

# 平成 21 年度 宇部工業高等専門学校 年度計画

## I 業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

### 1 教育に関する事項

#### (1) 入学者の確保

- ①・小学校高学年，中学 1～3 年生を対象とした出前授業，地域教育，オープンキャンパスの実施及び HP を充実・推進する。  
・入試方法の改善策を検討する。学力選抜の傾斜配点や普通高校からの編入学生の受入れについて検討する。また，推薦選抜・学力選抜の割合の見直しを行う。
- ②中学生にとってより魅力あるパンフレットなどを検討する。在学生が近況報告を兼ねた母校訪問を行い，PR 活動を実施する。  
入試情報について，可能なものはホームページ等で公開する。
- ③高専制度の理解と入学志願者の新規獲得のため，他高専と連携して説明会等を実施し，入試広報を充実させる。中学生を持つ保護者を含めた広報活動に力を入れて取り組んでいく。オープンキャンパスを夏と秋の 2 回実施する。秋は高専祭と同時開催とする。

#### (2) 教育課程の編成等

- ①学科構成や専攻科のあり方を検討するために，社会や志願者のニーズを調査する準備を始める。
- ②カリキュラム編成において楔形を維持しつつ，低学年で本当に必要な基礎的な内容の検討を行う。また，4 年生以上の高学年では，内容について大学学部相当であるか調査を行う。
- ③実務に強い実践的な技術者を育成するという観点から，技術者として現場で働いている人による講義を特別講義（4～5 年生）の中で実施する。
- ④創造力を養成するために専攻科に設置されている「総合演習」の内容を，地域ニーズに基づいた実践的課題を対象として取上げ，チームとして組織力を発揮して実現する内容に改める。経営情報工学専攻では「社会システム工学実験」において，既存

- の数理モデルの拡張、情報システムの機能追加などを学生自身のアイデアに基づいて行わせることにより創造性を涵養する。
- ⑤プログラミングコンテスト、ロボットコンテスト及び英語コンテストについて、本大会に繋がる校内ミニ大会の実施を検討する。

### (3) 優れた教職員の確保

- ①教員の採用は、大学、高等専門学校、公的研究機関、民間企業等から広く公募により行う。授業担当について、一般科と専門学科間で連携を進める。
- ②教員公募においては、女性教員を採用するよう努力する。特に能力が同等であると認められる場合は女性を優先して採用する。また、英語や中国語など語学で外国人教員を採用するよう努力する
- ③教職員の教育業績、研究業績、地域貢献度を数値的に評価する方法について検討を始める。
- ④FD研修会や公開授業を継続する。FDの一環として、保護者による授業参観の実施について検討する。
- ⑤教育活動や部活指導、生活指導において顕著な功績があった教職員やグループについて表彰を行う。
- ⑥職員の採用・養成・人事交流に関して、関係機関との連携を図り、計画的に進めて行く。

### (4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ①人間性豊かな実践的技術者養成を目指す。教養教育、外国語教育、専門基礎科目について学年に応じてきめ細かく、修得させる。
- ・(国語) 読むことに関しては、1年間に20冊以上の本を読ませることで、読書の習慣を身に付けさせる。書くことに関しては、課題に沿った、型のしっかりした作文・小論文を書けるようにする。聞くことに関しては、話のポイントやキーワードを指摘できるようにする。話すことに関しては、テーマや構成が明確な1分程度のスピーチやプレゼンテーションをできるようにする。漢字に関しては、漢検3級程度の漢字の読み書きが確実に出来るようにする。
  - ・(社会) 3年生以下においては、限られた単位数の中で、高校課程と同等程度の修得すべき基礎的事項を精選して教授する。授業の導入や要所で社会問題を取り上げていく中で、地域から世界へ広がる視点を培うようにし、社会的事象への関心を

持たせるようにする。そのためにより多くレポート作成を課すことにする。4年生以上にあつては、様々な世界観，人間観，あるいはこれから特に必要と思われる諸思想を取り上げ，多面的な見方を教授する。班別発表やクラス討論なども講義内容に応じて取り入れていく。

・(英語) 授業では，読解力・文法力の向上を目指し，音声指導にも重点を置いた指導を行う。また，辞書や参考書などの使い方を指導して，自ら英語を理解して使おうとする積極的な態度を育てる。単語参考書等を全員に持たせ，定期的に単語の試験を実施し，5年間で3000～4500レベルの語彙の習得を目指す。

授業以外でも，実用英語検定やTOEIC等の英語運用能力試験を単位認定対象資格として奨励し，実用英語検定は年2回，TOEIC(IP)は年5回程度実施して，できるだけ多くの受験機会を提供する。TOEIC(IP)では400点取得を目標とし，3，4年生ではTOEIC(IP)を全員に受験させ，実践的能力の育成と実力の把握を図り，今後の指導に役立てる。

- ・(芸術) 楽器演奏など実技面での指導に特に力点を置く。
- ・(理科) 基礎的事項が理解できることを目標に，物理では「教科書の説明文，問題文の読解」に力点を置く。また力学分野の教卓実験を3～4回行う。化学では小テストを多数回行う。
- ・(数学) 平成21年度は全体的に計算力向上を図る。
- ・(体育) 体育分野では，特に1・2年生において自ら安全に配慮して考え，行動できる態度を養う。運動技能については個人技能が身につくよう粘り強く反復練習に取り組む姿勢を養う。また，ゲームにおいて個人技能の向上が体感できることを目指す。

3・4年生においては，組織的なゲームが成り立つよう，チーム内において戦術についての理解を深めるなど集団技能を養うことを目指す。

保健分野では，“いのち”の尊さ，大切さについて一人一人が考えることができる能力を養う。

実習をとおして，自分自身の“こころ”と“からだ”について，仕組みや変化を科学的根拠にもとづき理解できるようにする。また，知識だけでなく，いきいきとした生活を送るための“知恵”を会得できることを目指す。

②工業英語のシラバスの改善を検討し，英語能力の向上を図る。

③eラーニング用のコンテンツの整備や，これによる学生の自己学習と学習成果の自己点検についての方法を検討する。

- ④専門基礎科目では、計画的に演習課題を与えレポート等として提出させて理解を深めさせるとともに家庭学習の習慣化を図る。
- ⑤専門基礎系科目に対して自学自習を促すように演習を効果的に取り入れ、また、教材や授業資料をホームページにアップロードして効率化を図り自学自習を行いやすくすることにより能動的な学習習慣を身につけさせる。
- ⑥一般科教員及び専門科教員の授業担当教員間で定期的に意見交換を行い、基礎教育の充実を図る。また、学生の学修状況や授業アンケートをもとに各専門科目間の流れや授業内容の吟味を行い、問題がある場合は必要な処置を速やかに講ずる。
- ⑦・本科では、実験・実習、演習科目を重視し、実践的技術者に必要な技術・知識を身に付けさせる。卒業研究では、出来るだけ個々に異なるテーマを与え、新しい課題に挑戦していく資質を養成する。
  - ・専攻科では、国内及び国外の学会、研究会において、積極的に研究発表をさせることによって、新しい課題に挑戦していく資質を養成する。
- ⑧卒業研究では、他大学や地域企業等との共同研究を進めて研究テーマを開拓するなどし、個々の学生に新しい課題に取り組ませ、学生自らが技術的に価値のある解を粘り強く見出し、達成感と感動を経験できるよう指導する。また、社会に通用するコミュニケーション能力を育成するため、卒業研究発表は、学内の発表会にとどまらず、学協会の発表会にもできるだけ参加させ、研究の目的・方法・結果を分かりやすく説明しかつ適切な質疑応答ができるよう指導する。
- ⑨生産システム工学専攻、物質工学専攻、経営情報工学専攻の数学科目を、お互いに履修可能にすることによって数学教育を充実させる。
- ⑩専攻科では、教員のレベルを確保するために、特別研究指導教員の「資格」導入を検討する。学外の有識者で構成する運営諮問会議を発足させ、助言を受ける。平成 21 年度は JABEE プログラム継続審査にあたっており、審査を受け JABEE 認定を継続する。
- ⑪宇部地区大学等間の教育連携を検討するため、本校、山口大学、宇部フロンティア大学に宇部市を加えた 4 機関で検討会を設立し、連携に向けた検討を随時行っていく。

## (5) 学生支援・生活支援等

- ①学生相談室では、学生個人の抱える心の問題やクラスの傾向を把握し早期に対応するため、昨年度から新入生を対象に心理テ

ストを導入したが、さらに活用するための方策や実施時期を見直す。

- ②ハラスメント防止・対策に関するガイドラインを全構成員に周知するとともに、ハラスメント防止のための研修会を開催する。
- ③・これから何を勉強していくか、将来何ができるようになるか、どんな仕事につけるかなどを1，2年生で初期導入教育を実施し、やる気を起こさせる。また、インターンシップの推進を計る。
  - ・過去の資料をデータ化し、ホームページでの情報提供を推進する。また、情報提供のスピード化及び環境改善に努める。企業へ「学校紹介」「求人票」を送付し、求人の確保・拡大に努める。
- ④保護者会を夏季休業中に開催する。保護者からの要望、意見等を参考に、次年度の保護者会の内容を検討する。
- ⑤オープンオフィス制度や部活を通し、できるだけ個々の学生と面談する。その状況（生活指導や学習指導、その他相談等）は、年度末に調査し集計する。
- ⑥・学寮指導者研修会の実施回数増を目指し、実施方法について検討する。
  - ・学寮行事の見直しを行い、寮内外清掃日を追加・実施するとともに、一般寮生と留学生との効果的・継続的な親睦行事を、寮生会と協力して決定する。
  - ・定期的かつ確実に清掃とゴミ分別が実施できる体制について、寮生会と協力して検討する。
- ⑦寮生会を通し、寮内外の美化や分別収集について計画し、実施する。
- ⑧ホームページに掲載する各種奨学金制度及び授業料免除に関する情報を見直す。

## （6）教育環境の整備・活用

- ①施設の利用状況に関して、施設設備委員会による調査を実施する。
- ②施設・設備やスペースの再配分等について、上記①の調査結果を基に検討を進める。
- ③マルチメディア多目的室などの有線 LAN 設備の段階的開設に取り組む。
- ④・改修工事により図書館の新装開館が成ったのを契機に、教職員及び在校生への図書館アンケート調査を実施する。アンケート結果の分析・評価に基づいて、図書館利用とサービスのいっそうの改善を図るための具体策を検討する。
  - ・貸し出し冊数の減少傾向に歯止めをかけるために、全学の学生・教職員に対して、分かりやすいように、「1人10冊、年間1

万冊貸し出し」という数値目標を提示する。

⑤情報処理センターを中心に、具体的なeラーニングの環境整備について検討する。

⑥寮生に対しアンケートやヒアリングを行い、生活・居住環境、留学生受け入れに関する問題点を調査し、実施可能な対応について検討する。

## 2 研究に対する事項

①技術相談、地域企業訪問などの事業、あるいは教育コーディネータの活動を通じて地域企業のニーズを発掘し、これを卒業研究や特別研究のテーマに反映する。年度末には技術相談、企業ニーズの取り入れ状況等の実績を調査する。

②高専－大学間及び高専間等との交流・連携事業に参加して情報収集し、これを卒業研究や特別研究のテーマに取り入れることを企画する。

③教員は研究成果の知的財産化に努め、教育コーディネータ等は教員の知財意識向上と知的資源発掘を支援する。卒業研究あるいは特別研究の成果が、学術論文や国際会議等で公表された事例を紹介し、意識向上を図る。

④校長裁量経費を過去5年間の研究業績、科学研究費補助金申請・採択実績等を評価し、特別教育研究費として配分する。

⑤科学研究費補助金及び外部資金に関わる説明会等を開催し、競争的外部資金の獲得に向け支援する。

⑥宇部高専 Seeds&Needs シンポジウムや宇部高専テクノフェアなどを宇部高専テック&ビジネスラボレイトとの共催事業として実施し、会員企業との共同研究件数の増加を図る。また、共同した人材育成プログラムの構築を目指した準備委員会の立ち上げを検討する。

⑦地域企業訪問や地域企業のための学校見学会等の事業を通じ、マーケティングの分野も含めた地域企業の開発課題を抽出する。

## 3 社会との連携や国際交流に関する事項

### (1) 社会との連携

①・小中学生、一般市民、企業技術者等を対象とした公開講座、小中学生を対象とした科学教室や地域教育、社会人を対象としたリカレント教育、図書館やその他の施設の開放を実施し、地域へのサービス・連携を図る。

・図書館の地域開放をさらに促進するために、引き続きホームページ等で周知するとともに、図書館開放案内パンフレット（仮称）を作成し市内の公共施設（公民館，市役所出張所等）に配布したり，学校紹介行事の機会を通して学校を PR するとともに図書館利用を促す。

②書式作成・情報収集・インタビューを経て教員のシーズをとりまとめた冊子研究シーズ集の発刊，教員の教育研究業績と地域貢献実績を集約したデータベース U-SEARCH の公開・管理・運営，教員の教育研究シーズをカテゴリー毎に分類・図化した教育研究シーズチャートの毎年更新，地域共同テクノセンターニュース&レポートの毎年発刊等を通じ，教員の専門分野，研究成果及び地域社会における文化活動実績等を幅広く広報する。

③宇部高専テック&ビジネスコラボレイトはもとより，やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議，宇部キューブサロン，山口銀行などとの連携事業を広く実施する。

④宇部高専同窓会の協力の下，卒業生との情報ネットワーク構築を開始する。卒業・修了生が再就職の折，地元企業に就職できる支援体制構築を検討する。

⑤・山口大学工学部との教育・研究面での有機的な交流・連携を実施する。高専-大学間，高専-高専間等で活動できるコーディネータを確保し，業務遂行を果たす。

・宇部地区大学等間の教育連携を検討するため，本校，山口大学，宇部フロンティア大学に宇部市を加えた4機関で検討会を設立し，連携に向けた検討を随時行っていくことになっているが，同検討会を活用し研究連携についても併せて検討する。

⑥・広報委員会が適宜ホームページや本校発行のパンフレット等の見直しを行い，情報公開の充実を図る。

・本校の教育研究及び在校生や卒業生の活動等について，ホームページやマスコミ等を通じて積極的に情報公開を行う。

・本校主催のイベントや地域のイベントへの参加を通して，広く一般に本校の情報の提供を行い，本校の認知度の向上を図る。

## （2）国際交流

①・留学生の受け入れを推進するため，平成22年度以降の受入枠を見直す。高専機構が平成23年度に実施する外国人対象入試に本校として参加するため，各種委員会がそれぞれの立場で積極的に関与する。

・専攻科において海外学術交流協定締結校との交流に基づく海外インターンシップ制度を導入，確立する。

- ②海外学術交流協定締結校との合同シンポジウムを開催する。
- ③留学生用「日本語」科目などを山口大学（工学部）との連携で相互利用できないか検討する。
- ④常盤工業会が主催する留学生交流会やお茶会など各種イベントに積極的に参加し、交流の拡大を図る。

#### **4 管理運営に関する事項**

- ①組織・運営検討委員会を随時開催し、意見交換、情報の共有化を図り、本校の運営方針について検討を行う。
- ②運営委員会において、教育・研究・管理運営面の方策を決定する。
- ③管理運営体制について、随時検討を行っていく。
- ④毎年運営諮問会議を開催し、学外有識者の意見を運営に反映させる。
- ⑤新規事業の展開及び定員削減に対応するため、事務組織等の見直し、事務の合理化・効率化を図る。

#### **5 その他**

##### **(1) 自己収入の増加に関する事項**

- ①科学研究費補助金及び外部資金に関わる説明会等を教員へ周知徹底した後に年1回は開催し、競争的外部資金の獲得を支援する。(独)科学技術振興機構からの資金獲得については、教育コーディネータによる支援活動を充実させる。外部資金等の採択者名・課題・金額については公表する。
- ②・アンケート調査を実施し、その結果を反映させることでより魅力的な講座開設に努める。共同・受託研究については、積極的な受入を支援する。
  - ・毎年10件程度の公開講座・ものづくり教室を開催する。
- ③プロジェクト推進室を中心に全学体制で大型プロジェクトの申請を行う。

##### **(2) 固定的経費の削減に関する事項**

- ①運営委員会において、校舎地区と学寮地区におけるエネルギー使用量を報告する。



- ②ホームルーム，教員会議等で省エネについて周知徹底する。
- ③会議資料について現状を把握し、省略できるものから実施する。
- ④未利用施設，未使用物品の現状調査を実施する。
- ⑤修繕，取替時に自動節電・節水装置を設置する。
- ⑥施設改修予算が措置された場合，太陽光発電等の自然エネルギーを利用した設備の導入を図る。

### **(3) 環境負荷低減に関する事項**

- ①・地球環境を意識した技術者を育成するために，平成 22 年度入学生より全学科共通の総合科目として環境教育プログラムを企画・検討する。
  - ・校内におけるゴミの散乱防止に対する教育面での指導を実施する。
- ②校内にグリーンカーテンを設置する。